

2. 学校の歩み

わが国産業界の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和36年6月第38回国会において学校教育法の一部を改正する法律が成立し、昭和37年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

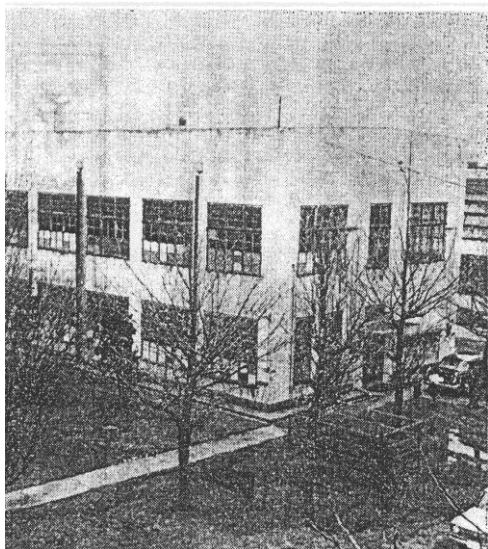
北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の一つとして工業に関する専門教育を授け、産業の興隆および文化の発展に貢献できる有能な技術者を育成するため、昭和40年4月1日工業都市北九州市に創立された。当時は機械工学科(入学定員80人)、電気工学科(入学定員40人)の2学科で発足したが、昭和45年に化学工学科(入学定員40人)、そして昭和62年度には、新たに電子制御工学科(入学定員40人)が増設された。

さらに、平成元年4月1日には、機械工学科が機械工学科(入学定員40人)と制御情報工学科(入学定員40人)に分離改組され、平成8年4月1日に大学評価、学位授与機構が認定する(生産工学、制御工学及び化学工学の3専攻から成る)2年制の専攻科が設置された。

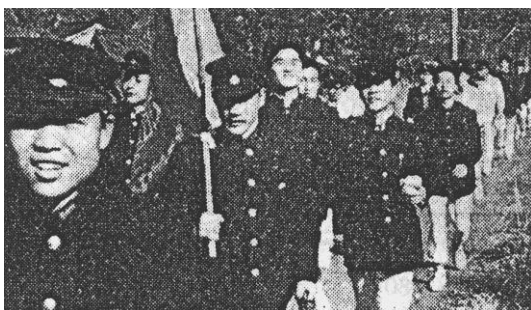
また、平成10年4月1日には、化学工学科(入学定員40人)が物質化学工学科(入学定員40人)に改組され、平成14年4月1日に電気工学科(入学定員40人)が電気電子工学科(入学定員40人)に、平成16年4月1日に専攻科の化学工学専攻(入学定員4人)が物質化学工学専攻(入学定員4人)に名称変更された。

昭和	40年	4・1	北九州高専設置(初代校長加藤常太郎)
		4・24	開校、第1回入学式(仮校舎)・機械工学科(86人)と電気工学科(40人)
	41年	6・24	学生会結成
	42年	4・1	新校舎へ移転
	45年	3・19	第1回卒業式・機械工学科(67人)と電気工学科(34人)
		4・1	化学工学科増設
	46年	1・7	全国高専ラグビー大会で優勝(以後3連覇)
	49年	4・1	二代目校長坂井渡
	50年	11・8	創立10周年記念式典
	51年	5・7	三代目校長田口胤三
	60年	4・1	四代目校長眞武友一
		11・25	創立20周年記念講演会
	62年	4・1	電子制御工学科増設
平成	元年	4・1	五代目校長植田安昭・機械工学科と制御情報工学科に改組
	2年	11・16	創立25周年記念式典
	6年	1・14	大韓民国国立裡里農工専門大学(現益山大学)と学術交流協定
		5・16	中華人民共和国国立揚州工学院(現揚州大学工学院)と学術交流協定(姉妹校)調印
	7年	4・1	六代目校長坂本正史
	8年	4・1	専攻科設置
	10年	4・1	化学工学科を物質化学工学科に改組
	14年	4・1	七代目校長陣内靖介・電気工学科を電気電子工学科に名称変更
16年	4・1	独立行政法人国立高等専門学校機構北九州工業高等専門学校設置となる	
17年	4・1	創立40周年	

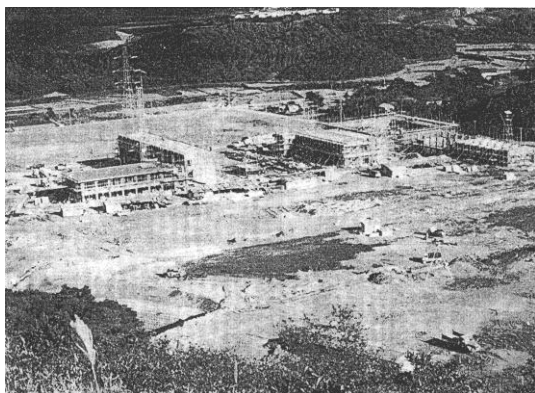
懐かしの写真集（高専新聞から）



仮校舎玄関



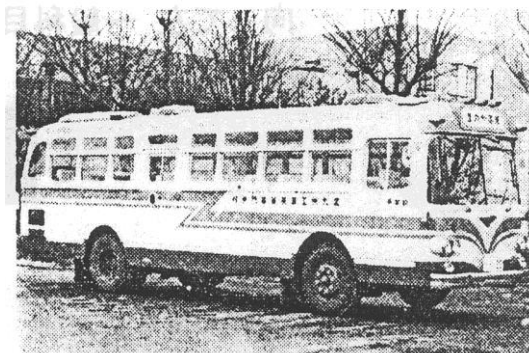
仮校舎時代の第1回歩行大会(昭和42年1月21日)(まるで学徒出陣?)



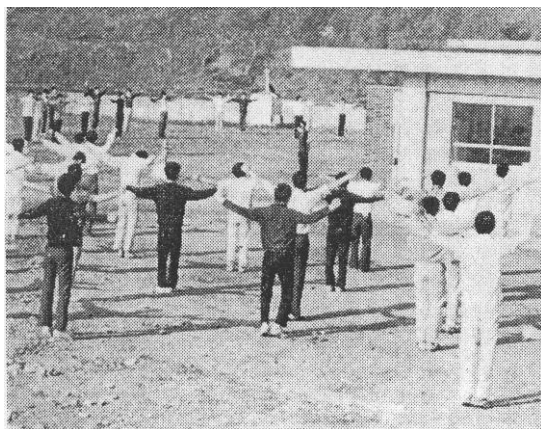
本校舎の建設、左から、管理棟・一般棟・機械電気専門棟・体育館・実習工場



仮校舎時代の登校風景



高専バス（昭和41年10月27日購入）



浩志寮、朝の体操風景

浅野高専 バス時刻表			
学校前折返しバス時刻表			
浅野 車庫発	学校前着	学校前発	浅野 車庫着
7:53	8:25	8:30	8:57
8:23	8:50	8:55	9:22
9:43	10:13	10:16	10:45
11:18	11:47	11:51	12:19
13:28	13:52	14:01	14:24
14:08	14:40	14:41	15:12
15:28	15:57	16:11	16:29
15:58	16:26	16:31	16:59
16:47	17:16	17:20	17:45
17:25	17:50	18:00	18:22

4月8日から運行予定 志井線時刻表			
浅野 車庫発	志井小 学校前着	志井小 学校前発	浅野 車庫着
6:15	6:43	6:55	7:23
7:36	8:06	8:19	8:46
8:48	9:16	9:32	10:00
12:18	12:46	13:02	13:30
16:12	16:40	16:53	17:21

【注】浅野車庫から平和通りまで四分

新校舎当時のバス時刻表、朝 7:53 に乗り遅れると遅刻、
夕方 6 時以降は志井入口まで歩かないと帰れない

ーラグビー部の活躍ー

本校の輝かしい歴史の一つに、ラグビー部の全国高専ラグビー大会 3 連覇がある。さらに、3 連覇の立役者の 4 期生の首藤幸一氏、丸山文夫氏が近鉄、5 期生の伊倉博史氏（故人）が三菱自工京都で社会人リーグの選手として活躍し、テレビ中継に映し出される（北九州高専）という文字に後輩達は勇気と誇りを与えられた。

ここでは、25 年誌の関係記事を記載する。

本校の体育クラブで全国優勝の栄誉を勝ち取ったのは、ラグビー部である。昭和 46 年 1 月 7 日、奈良・天理高校グラウンドで、大阪高専と決勝戦を行い、15 対 5 の成績を収めて優勝した。しかもこのラグビー大会は、第 1 回全国高等専門学校ラグビー大会であった。第 2 回全国高等専門学校ラグビー大会は、昭和 46 年 12 月 26 日から 28 日までと 30 日に行われた。前回と同じ会場であった。第 3 回全国高等専門学校ラグビー大会は、昭和 48 年 1 月 4・6・8 日、京都西京極球技場で行われた。ともに本校ラグビー部は優勝の栄冠を手にすることができた。この 3 連覇について、各新聞は報道したが、「毎日新聞」（昭和 48・1・9）は、「北九州工が三連勝、富山

商船を突放す」の見出しで、次のように報じている。

第三回全国高専ラグビー大会最終日は八日、京都・西京極球場で北九州工（九州）－富山商船（北陸）の決勝を行なった。

優勝候補の筆頭にあげられていた北九州工は富山商船の大型 F W に当たり負けて苦戦した。しかし後半、F W にまとまりが出て好球を支配するようになり、富山商船にまさる試合運びのうまさを発揮 25 分、こぼれダマを拾った溝口善のトライで 38－16 とし富山商船を突放した。北九州工は三連勝。



第 1 回全国高専ラグビー大会優勝杯



第 1 回全国高専ラグビー大会優勝・金メダル